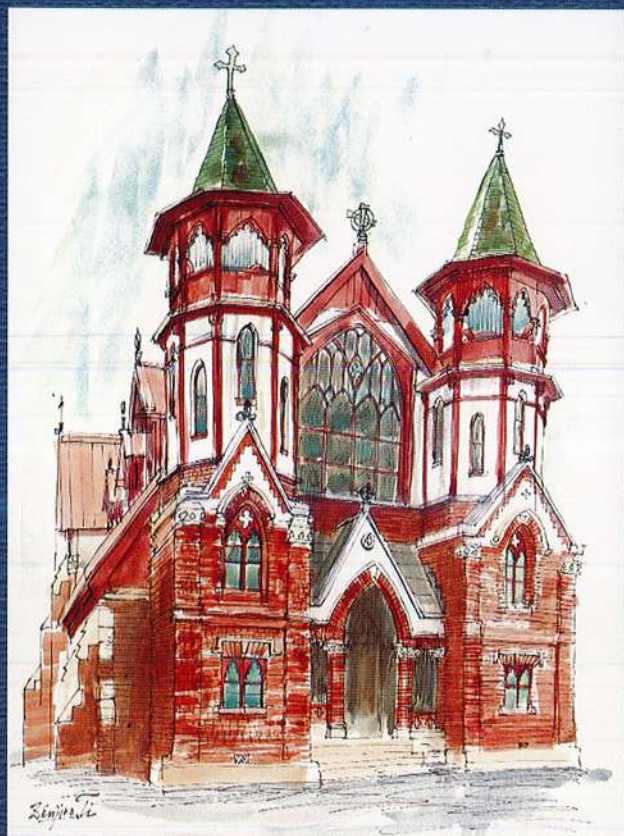


# MEJIMURA

明治村だより

Vol.64 2011 Summer



ベルリンから乾杯!  
日独交流150年とビール ヴォンデ、ペアーテ..... 2  
夏の催しもの..... 7



**西郷従道邸** 〈重要文化財〉  
建設年 明治10(1877)年  
西郷隆盛の弟、西郷従道が東京上目黒の自邸内に建てたものである。在日中のフランス人レスカスの設計と考えられ、半円形に張り出されたベランダ、上下階の手摺のデザインの美しさに加え、耐震性を高める工夫がなされている。



**聖ヨハネ教会堂** 〈重要文化財〉  
建設年 明治40(1907)年  
京都の河原町通五条に建てられたプロテスタント系の教会で、一階を日曜学校や幼稚園に、二階が会堂に使われていた。アメリカ人ガーディーナーの設計で、中世ヨーロッパのロマネスク様式を基調に、細部にゴシックのデザインを交えた外観になっている。

表紙 近岡善次郎画  
(所蔵:画像提供 日本郵政株式会社郵政資料部)  
近岡善次郎  
大正3(1914)年~平成19(2007)年  
山形県新庄市出身。「一水会」所属。日本各地の300ヶ所以上を回って「明治の西洋館」を描いた。博物館明治村にはそのうち100点が2回にわたって寄贈された。

平成 23 年 7 月 15 日 発行  
「明治村だより」第 64 号 (平成 23 年 夏)

発行 博物館明治村  
〒484-0000 愛知県犬山市内山一丁目  
電話 (0568) 67-0314  
http://www.meijimura.com

製作 大日本印刷株式会社

「明治村だより」第 65 号発行のお知らせ  
発行時期 平成 23 年 9 月中旬 (予定)  
申込方法 「明治村だより」第 65 号ご希望の旨及びご住所・お名前を明記の上、送料 140 円切手とともに封書にてお申し込み下さい。



# ベルリンから乾杯！ 日独交流二五〇年とビール



ヴォンデ、ベアーテ

ールハイム (Kehlheim) 近郊のヴェルテンブルク修道院 (Kloster Weltenburg) です。

いつ日本にビールが持ち込まれたのでしょうか？

ポルトガルの宣教師が自分たちの為に持ち込んで醸造したと考えられますが、ビールという言葉が初めてあらわれるのは出島のオランダ商館の記録です。そのため日本語の「ビール」という言葉はオランダ語の「bier」から来ています。日本人が初めてビールを飲んだ記録は一七二四年に今村市兵衛と名村五兵衛の「和蘭問答」の中に記されています。初め麦酒(麦酒)は日本人の口に全く合わず、馬の尿とまで比べられ、消化を助ける効果ぐらいがせいぜい認められていた程度でした<sup>4</sup>。

真夏、明治村を訪れた人はきっと喉がカラカラのことでしょう。そこで今回の明治村だよりは明治時代のビールについて触れたいと思います。私はドイツ人ですが、あまりビールを飲みません。日本に行くたびにドイツ人像を裏切ってしまう、いつも面目なく思いますが、私はドイツではワイン、日本では日本酒を好んで飲みます。真夏は例外として、私にとつてのビールは歴史的興味の対象です。

最近ドイツではパオラーナー醸造会社 (Paulaner Brauerei GmbH & Co. KG) のテレビCM (写真1)で、日本人のビール好きが知られるようになりました。このCMでは南ドイツのバイエルン地方のビアガーデンに観光で来ている日本人夫婦がドイツ人と同じビールに座っています。男性がウエイトレスに日本語で「バイエルの特産のものを注文したいのですが」と言いますが、ウエイトレスが分からないので



写真1 パオラーナー醸造会社のテレビCM

ドイツ人と同じビールに座っています。男性がウエイトレスに日本語で「バイエルの特産のものを注文したいのですが」と言いますが、ウエイトレスが分からないので、歴史ははるかエジプトの昔にさかのぼることができます。しかしドイツ人も紀元前八〇〇年頃からビールのようなものを飲み始めたことが考古学の成果からわかっています<sup>3</sup>。またドイツには一〇四〇年創業の、世界最古でいまだ現役のヴァイエンシュテファン・バイエルン州営醸造所 (Bayerische Staatsbrauerei Weihenstephan) がフライズィンク (Freising) という場所にあります。一〇五〇年創業の修道院として最古の醸造所はケ

幕末になると福沢諭吉の「西洋衣食住」(一八六七)(写真2)にビールは次の様に紹介されています。「又「ビール」と云ふ酒あり。是は麥酒にて、其味至て苦けれど、胸膈を開く爲に妙なり。」一八五九年にはすでに横浜の外国人のためにビールが輸入されていました。横浜は、ノルウェーに生まれ、一八六四年にアメリカから日本へやってきたウイリアム・コーブランド (Copeland, W. 一八三四—一九〇二<sup>5</sup>) が一八六九年に日本で

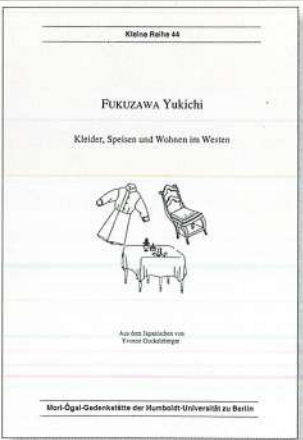


写真2 「西洋衣食住」(福沢諭吉) 右はドイツ語版

醸造を開始しました。二人は明治九(一八七六)年、コーブランド・アンド・ヴィーガント商会として、横浜山手居留地二三番地で共同経営を開始しましたが、三年余りで共同経営は破綻し、再びコーブランドの単独経営となりました。しかしこれも長続きせず、その後、コーブランドの醸造所を引継いだのが明治十八(一八八五)年に設立された「ジャパン・ブルワリー」です。明治二十一(一八八八)年ジャパン・ブルワリーが東洋の伝説上の動物「麒麟」をデザインしたラベルの「麒麟ビール」を発売しました。この後、日本各地でビール醸造が行われるようになりました。ジャパン・ブルワリーではビールの品質を支えるため、ヘッケルト、カイザー、アイヘルベルクなど有能な醸造技師を雇い入れました<sup>6</sup>。

中川はすでに十八歳の時に日本を出立し、長年イギリスに滞在した後、北ドイツ留学生総代で自らもドイツのビール醸造について独学で学んでいた青木周蔵の勧めにより、一八七二年チボリ醸造協会 (Brauerei-Gesellschaft (Tivoli)) でビール修行を開始します。この協会はベルリンに所在地を置き、一八七一年より麦芽製造所と醸造所をフュルステンヴァルデ・アン・デア・シュブレ<sup>7</sup> (写真3) に構えました。フュルステンヴァルデ大聖堂から程近い、中川が学んだこの醸造所は、第二次世



図1 19世紀末のドイツ地図

ビルゼン・カールスバートともに、伝統的にドイツ・ボヘミア地方の一部で、19世紀末まではオーストリア＝ハンガリー帝国に組み入れられ、1918年にチェコスロバキア共和国になりました。その後1938年のミュンヘン協定でドイツ帝国保護領となりますが、第2次大戦後復活したチェコスロバキア共和国に返還され、現在はチェコ共和国の一部になっています。



図2 ベルリン近郊図

ビルゼンもカールスバートもドイツ語読みです。(チェコ語ではそれぞれブルゼニ、カルロヴィヴァリです)これは、第2次大戦中の影響ではなく、1897年までドイツ語が公用語であったことによるものです。1897年にチェコ語が公用語になりましたが、それ以降もしばらくの間、チェコ語とドイツ語の2か国語が用いられました。例えばチェコの国民的英雄の作曲家、スメタナは、ドイツ語しかできませんでしたし、プラハ生まれの作家カフカの作品もすべてドイツ語で書かれ、ドイツの学校のドイツ語の授業(日本の国語の授業に該当します)でもとりあげられています。

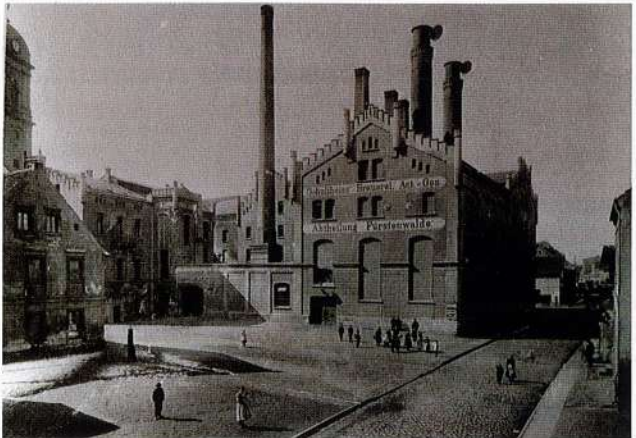


写真3 フュルステンヴァルデ醸造所



写真4 中川清兵衛の資格証明書

界大戦中の爆撃でなくなってしまう、今はもう古写真で見ることしかできません。

二年の職業研修の後、中川はツインマーマン所長から立派な資格証明書(写真4)を授与されました。その間に外務省一等書記官としてベルリンに駐在していた青木周蔵は、一八七五年の中川の帰国の際に北海道開拓使に推薦状を持たせました。北海道の涼しい気候はビールの原材料の栽培に適しており、ホップもよく育ち、きれいな水も豊富にありました。一八七六年、ドイツ帰りの醸造専門家中川が中心となり、開拓使麦酒醸造所の建設に着手。この建物は彼が学んだチボリ醸造協会の醸造所と瓜二つの外観で、わずか三ヶ月で開業に至りました。これが今日のサッポロビールの先駆けです。一八八七年からこの場所でドイツ人の醸

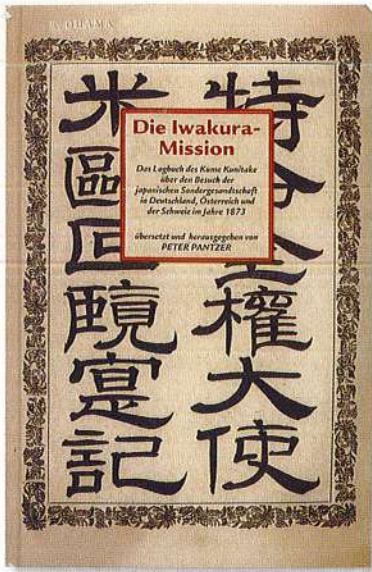


写真5 久米邦武著、ペーター・パンツァー訳編『特命全権大使米欧回覧実記』の表紙(右)と挿絵(左)

造技師マックス・ボアマンが事業の近代化を助けた。

日本で急速にビールの人気が広まったのは、言うまでもなく岩倉具視等に代表される使節団や当時の留学生等、ヨーロッパの社会や環境の中でビールのおいしさを発見した人たちの存在を無視することはできません。

久米邦武はその著書「米欧回覧実記」(写真5)の中でベルリンについて次のように記しています。

『府ノ四辺ニ、多ク遊苑ヲ修ム、必ス麦酒醸造の家ヲ設ク、都人男女ノ来遊スルモノ、庭上ニ羅座シ、一小案ヲ対シテ、麦酒ヲ酌ミ、啜飲一頓、演劇、演劇、演劇以テ快ヲトル場ノ内ニモ、男女酒ヲ飲ムヲ厭ハス、英米ノ風ト、頓ニ面目ヲ異ニス、飲酒ノ盛ニ流行スルコトハ、歐洲ニテ第一等ノ国ナリ、普国ノ人民ハ、一年飲酒ノ量、一人ニ平均四「ヘクトリットル」ヲ飲ミ、薩撒人ハ六「ヘクトリットル」ヲ飲ム、英国人ノ麦酒ヲ嗜ミ、醸造ノ夥シキモ、反テ「ペクトリットル」ニスキス、(後略)』

ベルリンでは一億八千二百万ヘクトリットルのビールを生産し、一八七二年八月三一日現在の人口は九〇九、五八〇人なので、一人当たりのビール消費量は二百ヘクトリットル、ミュンヘンでは三四〇ヘクトリットルということでした。佐藤進<sup>10</sup>について調べていたとき、一八七四年七月一日付のベルリナー・ターゲスブラット紙(写真6)の中に偶然この様な記事を見つけました。

「政府からの援助を得て醸造を学ぶため、若い日本人が(中略)ピルゼン(Pilsner、現在はプルゼニユと表記されることが多い)に派遣される。日本の佐野常民卿はカールスバート(Karlsbad、

ル」半なり。余は僅に三杯を喫ることを得、是を極量と爲す。蓋し諸生輩の嘲笑を免る可らざる者あり。」(写真8) <sup>13</sup>

この消費量に対する驚きは後に一八八六年にミュンヘンで行った学術的実験となって表れます。鷗外はビールの利尿作用についての実証をしようと、鷗外自身と同郷の加藤博士、それに立派な体格の三人のバイエルン人の研究所助手を被験者に選びました。日本人もバイエルン人もそれぞれ朝空腹の状態から五時間、三十分おきに(a)蒸留水または水道水を飲み、その後(b)一晩置いた、または栓を抜いたばかりの「シュパーテンプロイ(Spatenbier)」または「プショーのサロンビール(Pschorr's Salonbier)」そして最後に比較のために(c)ワインを飲みました。この間一定時間ごとに尿の量を計測しました。鷗外はビールの利尿作



写真7 シュルトハイム醸造所(現在は「文化醸造所」)

### 鷗外とビール

鷗外の「獨逸日記」にはビールにまつわる記事を十五箇所見つけることができます。若き鷗外がドイツでビールを飲んで、味をしてみたことは疑いなくでしょう。しかしドイツ人の学生が一般的に飲む量には驚いたようです。

明治十八年(一八八五)六月二十七日  
ゴオリス(ライプチヒ)

「諸生輩麥酒を喫す。其量驚く可し。獨逸の麥酒杯は殆ど半「リイテル」を容る。而して二十五杯を傾る者は稀なりと爲さず。乃ち十二「リイテ



写真8 当時のビアホールの様子

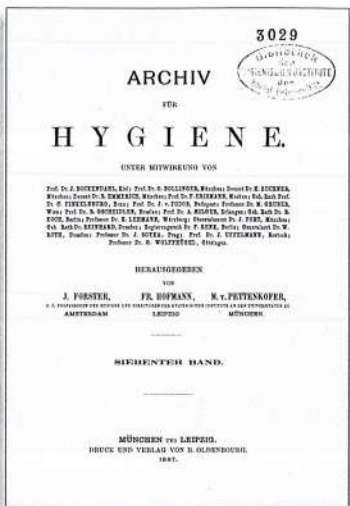


写真9 衛生学アーカイブ第七巻 扉(右)、森鷗外の論文ページ(左)

「Junge Japanesen werden, wie das „Dr. Mitsubi.“ mittheilt, nach Pilsen geschickt werden, um dort auf Kosten der japanesischen Regierung das Bierbrauen zu lernen. So hat der japanesische Minister-Resident Sano Tsunetami, den Pilsenern versprochen, als er dieser Tage auf der Rückreise von Karlsbad nach Wien die Pilsener Aktien-Brauerei, und zwar zwei Tage hintereinander, besuchte. Es scheint der japanesischen Exzellenz dort sehr gemundet zu haben, denn er bestellte zugleich ein Quantum Exportbier für den japanesischen Hof.

写真6 ベルリナー・ターゲスブラット紙の記事

日本の宮廷のために注文した。」

本当に留学生がピルゼンに送られたのか、それがいつだったのかは確認することが出来ませんでした。しかし日本のビールがピルゼンの製造方法にならっており、アメリカのビールの味とは異なることは、私たちがそれぞれの舌で証明出来ることです。

ベルリンには一八八三年の時点すでに十七箇所のラガー・ビール醸造所がありました。一番古いものは、シェーンハウザー大通り(Schönhauser Allee)にある一八四二年創業のシュルトハイム醸造所(Schuller-Brauerei)<sup>11</sup>です。六つの中庭で繋がれた醸造所の二十の建物は、現在は「文化醸造所」(写真7)という名前前で文化村のように展覧会、デイスコ、映画、朗読会、事務所や出版社等、文化センターとなっていて、ベルリンでは若者が集まる熱いスポットの一つとなっています。この場所は鷗外<sup>12</sup>も知っていたはずでした。

用があるものの、ワイン程ではないことを証明しました。根拠として鷗外はその内蔵機能を細にわたって実験し、アルコールの効果であるとしています。日本人とバイエルン人の消費量の違いについては、体の大きさと重さ(五十五キログラムと七十八キログラム)の違いという結果に留めています。

また当時流行っていた醸造の若いビールを飲んだ後によく見られ、ビールにナツメグを入れた飲食店で問題になった「ビール淋病」(何度もトイレに行きたくなる)という病気についても調べました。

まだ今日に至っても翻訳は出版されていない「ビールの利尿作用」という大変精密な論文を鷗外はすばらしく、間違いの全くないドイツ語で書いており、衛生学アーカイブ七巻(一八八七)年(写真9)に収めています。日本人がアルコール分解酵素を血液中に持たず赤くなることは、当時未だ知られておらず、鷗外もこのことに触れていません。

ドレスデンで鷗外は夜仲間たちとよくビールを飲みに出掛けていました。現在東京の森鷗外記念会のアーカイブに、ドレスデンの友人から別れ際に送られビールジョッキ(Krug)(写真10)が遺されていますが、このジョッキには理由があります。

写真10 鷗外がロート軍医監より1886年の誕生日に贈られたジョッキ(文京区立鷗外記念 本郷図書館蔵)

明治十九年(一八八六)年一月二十日(ドレスデン)「夜口オト余がために生誕の筈をその家に開く。來賓二十餘名。口オト余を延いて一机

# 宵の明治村 2011

期間：8月6日(土)・7日(日)・11日(木)～16日(火)  
18日(木)～21日(日)・26日(金)～28日(日) 15日間

期間中・夜9時まで開村 ※荒天時は延長開村中止の場合有り  
(開催日)・浴衣姿の女性は終日入村無料(浴衣姿の男性は入村割引 ※大人200円割引)

## 宵の建物ガイド・スペシャル

東松家住宅、芝川又右衛門邸、高田小熊写真館は、19時まで建物ガイドを実施します。昼間とは違った宵の表情をお楽しみください。



## お笑い集団「よろずや明治」呉服座公演

宵の明治村のために旗揚げしたお笑い集団「よろずや明治」によるお笑い満載のお笑いライブ。漫才、マジックショー、集団コントとバラエティー溢れる舞台です。

- 場 所 / 呉服座
- 開演時間 / ①15:00～ ②16:00～ ③18:00～ ④19:00～ (各回約30分・入替制)
- 観 劇 料 / 300円 (小学生以上)

## ライトアップ明治村

建物と街並をライトアップ。村内を美しく彩ります。

- 場 所 / 帝国ホテル中央玄関・聖ザビエル天主堂ほか



## 花火競演

- 場 所 / 帝国ホテル中央玄関前 芝生広場一帯 (1日約500発)
- 時 間 / 20:30～

## Dreaming・Jazzナイト

野外特設ステージでのジャズコンサート

- 場 所 / 帝国ホテル中央玄関前 芝生広場特設ステージ
- 時 間 / ①19:00～ ②20:00～ (各回約30分)

※各イベントは荒天時、中止となることがあります。悪しからずご了承ください。

## 夏の催し 7月16日(土)～8月31日(水)

### 錦絵の多色摺り体験

木版画の多色摺りを体験していただく夏休み限定企画。版は明治時代の「錦絵」をモチーフにしたものを用意。夏休みの宿題にオススメです。

- 開催日 / 8月7日・14日・21日・28日 いずれも日曜日
- 時 間 / 13:00～17:00
- 会 場 / お休み処 碧水



### 明治に学ぶエコライフ 明治の夏の暮らし

エコライフを送っていた明治の頃、夏を涼しく過ごすための先人の工夫を紹介します。

- 場 所 / 森鷗外・夏目漱石住宅、東松家住宅、西園寺公望別邸「坐漁荘」、幸田露伴住宅「蝸牛庵」、本郷喜之床ほか村内各所



### 盛夏の味覚

村内の飲食店舗では夏の涼しいメニューが勢ぞろい!

#### 村の夏“喜”氷フェア

- 場 所 / デンキブラン汐留バー・尾張茶寮 小倉ドックの店・食道楽のコロツケーの店 食道楽のカフェ

#### 夏季限定メニュー

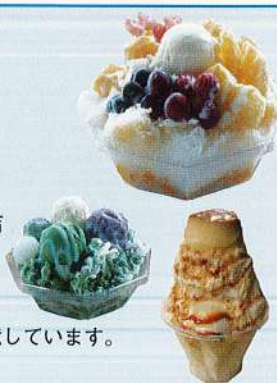
- 「冷やしとろろそば」などの夏季限定メニューをご用意しています。
- 場 所 / 明治村食堂、浪漫亭、七条お休み処

### 天然水足浴〈冷水〉「半田東湯」

夏は尾張富士の天然水をそのままに、ひんやり冷たい足浴でリラックスして下さい。100円(貸タオル付)

### 村の団扇プレゼント(和雑貨「楽」) ※限定1,000本

「和雑貨 楽」にて1,000円以上お買い上げの方(先着1,000名様)に、明治村オリジナル団扇をプレゼントします。



※催事内容は予告無く変更・中止する場合がございます。詳しくはお電話でお問合せいただくか明治村公式HPをご覧ください。

お問い合わせ先

http://www.meijimura.com または 0568-67-0314

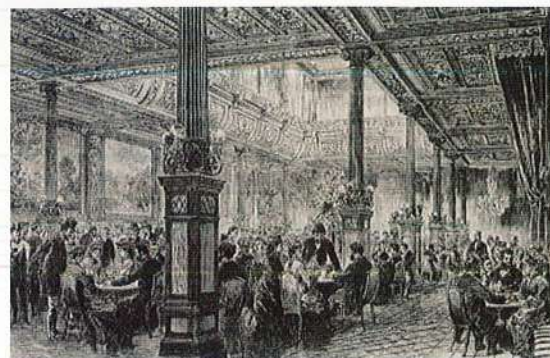


写真11 鷗外がベルリン滞在中、足下繁く通ったウンター・リンデンのCafé Bauer



写真12 森鷗外ビール うたかたの記

皆さんがこの記事を読んでいる間にもベルリンの人達はどの渴きをビールで潤しています。ビールの祭典といえば日本ではミュンヘンのオクトーバー・フェストが有名ですが、ベルリン

「始て大和會に臨む。(中略) 麥酒を喫し、新聞を讀みて逍遣するのみ。」<sup>※13</sup> 以降、鷗外の「獨逸日記」には、ビールの記載は度々見られます。ベルリンでの鷗外はビールを飲むことがすっかり日常のものになったので、わざわざ書く必要はなくなったのでしよう。(写真11) 鷗外ビール

ここでドイツから「旬な」お知らせです。なんとドイツで「鷗外のビール」が誕生しました。バイエルン州アウアーバッハの醸造家アンドレアス・ミュラーは二〇一〇年に「森鷗外うたかたの記」(写真12)という名前を冠したビールの発売を開始しました。アウアーバッハという町はライプツィヒでも有名なアウアーバッハ・ケラーの創業地です。ライプツィヒのアウアーバッハ・ケラーは森鷗外が井上哲次郎とゲーテの「ファウスト」を翻訳することについて話し合った鷗外ゆかりの場所でもあります。そこでシュトゥーマーの生まれ故郷で鷗外にちなんだビールを醸造するというアイデアが生まれました。昨年十月六日、日本総領事の出席のもと、お披露目が行われました。とても飲みやすい黒ビールで、バイエルンのビール純粋令に基づいて作られている地ビールですが、大量生産はされていません。

「始て大和會に臨む。(中略) 麥酒を喫し、新聞を讀みて逍遣するのみ。」<sup>※13</sup> 以降、鷗外の「獨逸日記」には、ビールの記載は度々見られます。ベルリンでの鷗外はビールを飲むことがすっかり日常のものになったので、わざわざ書く必要はなくなったのでしよう。(写真11) 鷗外ビール

ここでドイツから「旬な」お知らせです。なんとドイツで「鷗外のビール」が誕生しました。バイエルン州アウアーバッハの醸造家アンドレアス・ミュラーは二〇一〇年に「森鷗外うたかたの記」(写真12)という名前を冠したビールの発売を開始しました。アウアーバッハという町はライプツィヒでも有名なアウアーバッハ・ケラーの創業地です。ライプツィヒのアウアーバッハ・ケラーは森鷗外が井上哲次郎とゲーテの「ファウスト」を翻訳することについて話し合った鷗外ゆかりの場所でもあります。そこでシュトゥーマーの生まれ故郷で鷗外にちなんだビールを醸造するというアイデアが生まれました。昨年十月六日、日本総領事の出席のもと、お披露目が行われました。とても飲みやすい黒ビールで、バイエルンのビール純粋令に基づいて作られている地ビールですが、大量生産はされていません。

- ※1 http://presse.paulaner-serviceportal.de/101.0136624d331b2225e83f9c7624478.html?PHPSESSID=136f624d331b2225e83f9c7624478
- ※2 http://www.onsis.de/uploads/tx\_sasabeitrage/2Der\_Biernarkt\_050910.pdf
- ※3 一九三四年、「カールスドルフのビール壺」と呼ばれる遺跡が見つかり、紀元前八〇〇年ごろのものだと推定され、中から発行されたのビール糖化残留物が発見された。
- ※4 日本でのビールの歴史についての記述はドイツ日本大学の長老ブルーノ・レイヴィン教授の論文に拠りました。レイヴィン氏が一九九九年にベルリン森鷗外記念館へ訪問した際、このテーマを紹介して下さり、私も興味を持つことが出来ました。ここに感謝致します。
- 参考: Lewin, Bruno (1992). Wie die deutsche Braunkunst nach Japan kam (2004). ドイツの醸造芸術が日本へ渡ったか. In Klaus Müller and Wolfram Naumann (Eds.): Nennri-Jahresringe. Festgabe für Hans A. Detmer. Wiesbaden: Harrassowitz.
- ※5 ウィリアム・コーブランド、中川清兵衛、キリンビールにこうして: http://www.kirinholdings.co.jp/company/history/person/index.html
- ※6 キリンビール協会の発行「ビールの辞典」(三省堂 1984)
- ※7 および Kurt Meisner: "Deutsche in Japan 1639-1960" 日本のドイツ人 1639-1960. In MOAG Suppl. Bd. XXVI. Tokyo und Hanburg 1960.
- ※8 菊池武男、柳井佐喜: 「中川清兵衛伝-ビールづくりの先人」八潮出版社 1992。
- ※9 ベルリンから地域特産で30分程です。
- ※10 Die Iwakura-Mission: das Logbuch des Kume Kunitake über den Besuch der japanischen Sondergesandtschaft in Deutschland Österreich und der Schweiz im Jahre 1873. München 2002
- ※11 佐藤進にこうして「明治村」Vol.62に詳しく。
- ※12 シュトルハイム醸造所は中川清兵衛が学んだチボリ醸造所とフェルステンヴァルデの麦芽醸造所を引き継いだ。
- ※13 ドイツ滞在中にはまだ「鷗外」という名は用いていませんが、この文章中ではすべて「森林太郎」とすべきところを「森鷗外」もしくは「鷗外」と表記しています。
- ※14 「獨逸日記」(鷗外全集第三十五巻、岩波書店 一九七五)より Heinrich Strömer (一四七六、又は八七二-一五四二)、バイエルンのオーパーパルツ地方のアウアーバッハ生まれ。医師、哲學家、事業家、およびライプツィヒ大学教授、医学部長。
- ※15 http://www.bierfestival-berlin.de/index.html

ンの人々だつて陽気になれるんですよ。それももうすぐ。毎年八月初めにベルリンで「ビール・マイル」<sup>※15</sup>と呼ばれるビール祭りが開催されています。昨年二〇一〇年の第十四回ビールマイルでは世界八十六カ国、三百以上の醸造所の二千種類ものビールが二・二キロメートルに渡ってカール・マルクス大通り(Karl-Marx-Allee)で提供されました。

何はともあれ、とりあえず、ビールで乾杯!

WONDE, Beate (ベルリン森鷗外記念館 副館長)